



読字 原田 親

No. 596

2010/2/5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒113-8526
東京都文京区湯島3-8-1
電話 03-3821-1100

日中友好協会
岡山支部
〒700-8236
岡山県北3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8011
倉敷市蓮島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:0860446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



中国はどこへ向かうか③

栗本 泰治

(これは、2009年11月15日の日中友好協会倉敷支部の第一回中国問題文化講座での講演「中国はどこへ向かうか」の原稿を修正したものです、数回に分けて掲載いたします。)

胡锦涛あいさつと中国の経済発展

話しは戻りますが、建国60年の天安門前の祝賀会で、中国の国家主席・胡锦涛さんが次のようなあいさつをしたと各新聞で報道されました。

各国人民に感謝の意を表明したあと、中国のこの60年の歴史をふりかえると、社会主義だけが中国を救い、改革・開放こそが中国を発展させた。

「これからも、中国の特色を持った社会主義の道を、ゆるぎなく進む。そして、独立・自主の平



建国60周年を祝い乾杯する胡锦涛・中国国家主席(右から2番目)と江沢民・前主席(左)ら中国の最高指導部

和外交を推進し、世界各国人民とともに「和諧世界」をきざっていく。」

以上の二点がどの新聞でも強調されていました。

60年前に、中国革命を成功させ、社会主義の道を歩んだからこそ、半植民地状態であった中国を救うことができた。そして30年前に改革・開放政策をとったことよって今日の発展を築くことができた、という意味です。

「和諧世界」というのは、胡锦涛さんの時代になって強調されている言葉で、深い意味があるようですが、ひとことと言え、調和の取れた世界、平和な世界、環境にやさしい世界……というような意味だと思えます。

中国の歴史をふりかえれば、清朝が崩壊してまだ百年にもなりません。1912年に清朝が倒れ、中華民国が生まれまし



中国建国60年を翌日に控え、掲げられた祝賀の横断幕

したが、国内では軍閥が割拠し、日本の侵略などもあつてうまくいきませんでした。

日本の侵略と戦って、抗日戦争をへて反帝・反封建の人民民主主義革命を成功させ、ついに60年前に新中国をつくったのです。

しかし、60年前の建国のころは、「窮乏の国」と呼ばれたように、一に貧しく、二に産業は空白という貧しい国でした。

それから60年、困難な国家建設や土地改革をへて、前半の30年は大躍進運動の破綻とか文化大革命の大混乱などの辛酸をなめました。

これらのあやまりを精算して、1978年にいわゆる改革・開放政策がスタートしました。改革・開放政策というのは、社会主義のもとで市場経済を導入したということです。

つづく

日本国民救援会 岡山県本部新年旗びらき

1月23日(土)国民救援会・岡山県本部の旗びらきが行われました。講演会では県本部の竹内和夫会長(岡山大学名誉教授)が「わたしの歩んだ道」と題して講演されました。

竹内会長は1927年1月5日生まれで83才。東京の「貧しい(会長談)」質屋の息子として生まれ、東京外大(当時は専門学校)でモンゴル語を学びながらCCD(Civil Censorship Detachment = GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の民間検閲局で仕事、のちに東京大学に進学されました。この間、ハンガル、支那語、トルコ語などアジアの言語を研究し、アジアに多くの友人をつくられたことが紹介されました。

アジアの文化と教育の研究を通じて、「天皇教」(会長談)から脱出。教育の国家統制、労働組合つぶしを「戦前の復活」と警鐘を鳴らされました。

また、憲法25条について「健康で文化的な最低限度の生活」というのは明らかな誤訳。原文は「the minimum standards of wholesome and cultured living」。「cultured」というのは「教養のある」「教養を有する」「自分の力で教養を身につけた」という意味。「文化的」は cultural。「minimum standards」も「最低限度」「ぎりぎり」などという意味ではないと指摘。「人間としての尊厳が守られ、健康が保障され、教養を保障される生活」と解されるべきなのでしょう。

東京の中学校で長年教鞭を執られ、岡山大学に言語学の講座が開設されるにともない、縁あって岡山に来られたとのこと。現在、国民救援会県本部の会長や日中友好協会岡山支部の理事長もつとめられています。ますますお元気で活躍されることを期待したいと思います。

旗びらきでは、参加者から活動の近況を報告してもらいながら懇談しました。

森脇ひさき (森脇ひさき氏のブログより)

岡山県西部への支部設立に全力を 倉敷支部理事会で確認

日中友好協会倉敷支部の新年はじめての理事会が1月12日に開かれました。

この理事会では、会員拡大とも関係して岡山県西部(井原、笠岡など)への支部設立が議題となり、岡山支部と協力して

井原と笠岡の知人に働きかけ、まず支部の準備会を立ち上げることになり、理事を兼ねて取り組むことになりました。

二つ目の議題は、第一回の中国問題の文化講座に引きつづき、第2回中国問題文化講座を3月末に開催することにしました。講師は大森支部長が担当し、次回の理事会で具体化するにしました。

三つ目は、日中友好協会設立60周年を記念して岡山でも岡山支部、倉敷両支部が協力して記念大会を開くことになり

中国映画「菊豆」を観る会

張芸謀 監督の名作

日時:

2月13日(土) 午後2時~

場所:

倉敷市福田町倉敷ライフパーク

入場無料

主催:日中友好協会倉敷支部

ました。このため、倉敷支部からは、大森、宮地、山県の3理事を準備委員として選出しました。

栗本泰治

中国残留孤児は、なぜ国を訴えたか 政策形成訴訟を読んで

日中友好協会岡山支部 事務局長 小林軍治

中国 残留孤児「国家賠償訴訟弁護団全国連絡会」が、2009年11月に発行した政策形成訴訟―中国 残留孤児の尊厳を求めた裁判と新支援策実現の軌跡―を読みました。

この本は、編集委員の一人である岡山弁護団の則武事務局長より、「孤児」訴訟を支援する会の元役員に十冊贈呈したいと連絡があり、手に入れました。

イスラームのこと

竹内和夫

もう十数年前、私のゼミからイスラーム圏であるトルコに留学した女子学生がいました。行く前に「困った時はどうしたらいいか」と聞かれて「とにかく泣け」と言ったんです。

イスラーム社会では、女の子が泣くと、周りの人はそれ以上何もできない。

その学生がトルコで、警察に行つて外国人の住民登録をしなければならぬ日を一日か二日過ぎてしまった。風邪で寝込んでいたんですね。

治つてから警察に行つたら、窓口の警官が「お前、期日、過ぎているじゃないか。一日当たり百ドル、罰金はらうか、四十八時間以内に国外退去だ」と言つたわけです。

本を読んで感じたことを、列挙してみます。

第一は、最初の本書を理解するためのいくつかのキーワードと第一章「はじめに……中国残留孤児はなぜ国を訴えたか」及び最後の「注・解説、年表、巻末資料」などが、中国 残留孤児「問題を理解する上での第一級の辞典（資料）であること」。

第二は「第二章、第三章」で書かれている各地の訴訟活

彼女、やりましたね。ここで泣いたんです。シクシク。

そしたらおじさんたちが彼女の周りに集まってきた。

「何だ？ 何だ？ なんで、おまえ、日本人の女の子を泣かしてるんだ」と。学生はわけを説明しました。するとおじさんたちは窓口の警官に詰め寄ります。日本から、わざわざ留学に来て、おまけに病気で寝たつて言ってるじゃないか。おまえ、なんてひどいことするんだ」と。

――・・・――

右の引用は内藤正典『イスラームの真実と世界平和』（マガジンハウス¥800＋税）という小さい本の書き出しの部分です。内藤教授には『イスラームの怒り』集英社新書¥700＋税）などもあります。

動、とりわけ法廷での原告本人尋問（孤児の生の声）、原告側証人の発言、弁護団の意見陳述などは、涙なくしては、読めなかったこと。

第三は「第五章・6章」での弁護団・原告団と与党PT・厚労省との協議経過は、読む者をグイグイと引き付け、臨場感にあふれていたこと。

私も、第5章の4「東京地裁判決と総理指示」の項では、三日間東京で行動に参加していたので、書かれている内容を昨日のこのように思い出します。

第四は「第8章のおわりに」の2「この裁判闘争が新たに創り出した国の政策以外の諸成

果」の項で「人間に対する信頼、人間のすばらしさ」を「絆」という言葉で表していること。

第五は「第二章の4のウ」原告・支持者・弁護士、三者の団結を貫いた岡山の闘いで、私の名前が二度も出ていること。

私は、2003年の3月に退職し、今日までの七年間、中国 残留孤児の支援活動に没頭した者として大変光栄なことです。

今後は、この本を手元に置いて、必要な時に読み返し、中国帰国者の支援活動（日本語教室など）など日中友好運動に役たてたいと思っています。

大相撲初場所観戦

中国内モンゴル出身初の十両 蒼国来」を応援して



力士の真剣な取組を何番か観た。二時三十分から十両の土俵入があり、蒼国来をカメラに収めた。目がきれいでまじめな好青年といった感じを受けた。春日錦と対戦し、つわてだしなげ」で勝ち、拍手を送った。

一月十七日（月）、東京・両国国技館で、大相撲初場所を観戦した。きつ掛けは、日中友好新聞新年号の新春インタビュー記事「中国内モンゴル出身初の十両が誕生」蒼国来さん初場所の土俵 夢をのせて」を見たからです。

二時頃国技館に入り、幕下

おひとりさまの老後」を読んで

「老後の社会保障を考える」学習会パート2 報告記(1)

1月23日（土）に、岡西公民館で開催されました。当日参加者は6人でした。

1回目の学習会では老後の社会保障の現実と、生活格差と貧困について学びました。

今回は、医療制度についてです。1回目について、講師は米田信敏さんです。

現在の病院は、急性期の病気を治療する一般病院と、慢性的な病気を治療する療養型病院と、がん治療などをする緩和ケア病院とに大きく分けられるそうです。そういう住み分けは、厚生労働省の方針で進



琴欧州と把瑠都の両巨漢の対戦は、土俵が狭く見えた。テレビで観ていた時は、立合いまでの時間を長く感じていたけれど、土俵下から見ていると力士の表情などがよくわかり、長く感じることはなかった。

さて、日中新聞によると「蒼国来」(そうこくらい)さんの本名は「恩和图布新(エンク・トブシン)」で「生平和でいてほしい」との思いが込められているそうです。彼は「角界で活躍し

められてきたものだそうで、診療報酬や看護師の人数などで、しほりがあるそうです。その結果、一般病院での平均入院日数は10日間、療養型病院での平均入院日数は長くて半年ということになるそうです。

ですから、たいいていの病院が関連病院との提携関係を持ち、急性期の時期を過ぎれば、回復期を担当するリハビリ専門病院へと受け渡されるので、その橋渡し役をする仕事が医療ソーシャルワーカーということになるそうです。ちなみに米田さんは医療ソーシャルワーカーです。

日中岡山9条の会」真田

ているモンゴル力士は多いですが、内モンゴルの存在を日本の皆さんに是非知ってほしい。日中友好で自分がお役に立つなら、なんでもします。」と語っている。

今場所は、西十両十三枚目で九勝六敗と勝ち越し、今後の活躍が期待される。日中不戦（日中友好）を掲げる私達も応援していきたい。

小林

次の新聞送付作業は

2月12日（金）午後1時半、民主会館2階で行います。

前回お手伝いくださった方です。

葉吹林内内井垣
稲貝小竹竹坪三